



電動カートで楽しそうに町を
出歩く戸田美智子さん＝大阪
府富田林市で、三村政司撮影

気軽に外出 広がる生活

ハンドルのアクセルレバーで操作する電動カートは、電動椅子の一種で、高齢者に人気がある。長距離を歩くのがつらい人には便利だが、その半面、事故の危険もある。

「ゲートボールの道具を入れるかごを付けたりして、自分の愛車にするのは楽しいですよ」。介護、福祉用品を紹介する「ATCエイソレスセンター」（大阪市住之江区）の前田敏彦チーフは話す。注意点は、▽外出先でバッテリー切れしないよう使った後は必ず充電する▽運転コースは危険がないか事前にチェックする▽時間に余裕を持って行動する―など。

電動カート専門会社「シンエンス」（大阪府富田林市）

**高齢者に人気の電動カート。
安全に、さっそうと
乗りこなすには。**

NAVIGATOR

乗ったら充電 ■ 事前にコース確認 ■ 定期的な部品交換

は、レンタル、販売のほか出張修理も請け負う。前田誠司社長は「定期的に交換が必要な部品も多い。特にバッテリーは注意が必要」と指摘する。バッテリーは老朽化すると持続時間が短くなる。バッテリーが上がって路上で動けなくなる。危険な場合がある。タイヤの溝がすり減っていないかも気を付けておきたい。

電動カートの利用で歩く力が低下するのでは、とも思えるが、前田社長は「歩くのがつらくて家にもってしまふより、カートで出掛けた方が歩く機会も増えます」と言う。時折ある事故は「扉にぶつけた」「自動ドアのガラスを割ってしまった」などが、「ほとんどは一時停止や安全確認

「譲り合いの精神持って」

をきちんとすれば防げます」。最も怖いのは踏切でのトラブル。阪神電鉄の車両進入禁止の狭い踏切で今年3月、電動椅子の車輪がレールの溝にはまって立ち往生し、障害者が電車にはねられ大けがをする事故があった。同社は事



デザインもスマートなものが開発されているATCエイソレスセンターで、和泉撮影

故後、車止めのボールの位置を変更し、車椅子が踏切中央を通りやすくした。中央をまっすぐ通れば安全だが、人や自転車を避けるため横に動くと脱輪の危険がある。「車椅子の進路を妨げないように、譲

り合いの精神で」と同社。富田林市在住の戸田美智子さん(70)は、電動カート運転歴10年。股関節が不自由で、娘さんから勧められて乗り始めた。趣味の民謡クラブ、福祉センター、友人宅など毎日のようにカートで外出する。歩道に乗り上げた違法駐車に困ることもあるが、交差点でトラックが道を譲ってくれたり、人の温かさに接することもあるという。「今の生活は電動カートなしには考えられない。もう体の一部です」では今日も、気をつけて行っただらっしゃい。

【和泉かよ子、小林祥晃】

